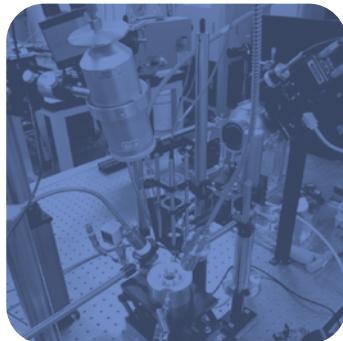
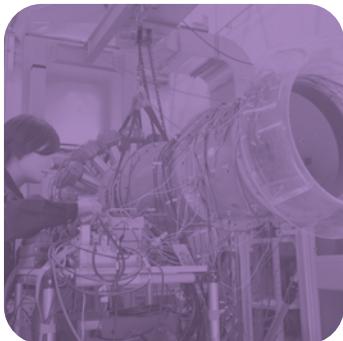




CAMPUS GUIDE 2020



KYUSHU UNIVERSITY

• • • • •

SCHOOL OF ENGINEERING



九州大学工学部

しつかり
九州から



九州大学工学部長
久枝 良雄

工学部が変わります！

2021年4月から九州大学工学部は新しく生まれ変わります。これまでのコース制を改め12学科に改編し、新たに融合基礎工学科と量子物理工学科を新設します。今回の改編で、今後の工学に必要となる情報教育を強化し、工学のどの分野にも必要な基礎科目を1年次の工学部共通科目とし、さらなる教育の充実を図ります。また、入学者選抜の枠組みと方法も多様化します。一般選抜では学部一括入試を取り入れ、更に新たに総合型選抜も実施します。工学部では、一学年に約800名の学生が在籍していますが、その約85%が大学院に進学し、より高いレベルの学問と研究に励んでいます。そこで、工学系大学院も改編し、大学院修士課程と連携した6年一貫型カリキュラムに変更します。

九州大学工学部は、1911年（明治44年）

に九州帝国大学工科大学として創立され、日本で有数の長い歴史を有しています。その後、1919年（大正8年）に九州帝国大学工学部、1947年（昭和22年）に九州大学工学部となり現在に至っています。この間、拠点大学の基幹学部として先導的研究と充実した工学教育を行い、これまでに約50,000名の卒業生を送り出し、工学・技術・産業の発展に貢献してきました。この間、「ものづくり」の中核を担う人材の育成を目的とし、専門分野の基盤となる基礎教育に力を入れてきました。その結果、卒業生が様々な企業で技術開発の中心的役割を果たし、産業界から非常に高い評価を受けています。今後も基礎教育を重視していくことには変わりありませんが、グローバル化の流れの中で国際的に活躍できる人材の育

成は勿論のこと、さらに世界をリードできるクリエイティブな人材、自らの力で新しい分野を切り拓くことのできるアクティブな人材の育成を念頭においています。

その一端として、各学科独自のカリキュラムのほかに、九州大学の海外拠点の協力の下で工学部生向けの学生派遣・研修プログラムやオンライン海外研修プログラムなどを独自に実施しています。また、学生のチャレンジ精神を育み、能力を自ら開発できるような取組みも充実させています。また、学士課程国際コースも設置しており、学部生の時から留学生と交流できる環境を整え、異なる文化や環境への理解を促進させています。

これから大学で学ぼうと思っている皆さん、その意欲が十分に活かせる九州大学工学部で一緒に学びましょう。

とした基礎とチャレンジ精神で イノベーションを！



CONTENTS

学科一覧・入学から卒業までの流れ	03	量子理工学科	14
先輩からの一言メッセージ	05	船舶海洋工学科	15
電気情報工学科	07	地球資源システム工学科	16
材料工学科	08	土木工学科	17
応用化学学科	09	建築学科	18
化学工学科	10	サークル紹介	19
融合基礎工学科	11	留学プログラム	20
機械工学科	12	卒業生メッセージ	21
航空宇宙工学科	13	就職先リスト	22

～100年の歴史と伝統、そして新キャンパスから未来へ～

1911年(明治44年)に創立された九州帝国大学工科大学が、工学部の起源です。100年の歴史と伝統を有する工学部は、戦前、戦後を通して、鉄道・土木・通信などの交通通信分野や鉱山・製鉄・造船・航空・機械製作・化学・繊維などの日本の礎となる基盤産業に多数の人材を輩出し、日本の発展を支えてきました。

1911年の発足以降、工学部は長きに渡って箱崎キャンパス(福岡市東区)に教育研究施設を置いてきましたが、大学のキャンパス移転構想の第一陣として2005年(平成17年)10月から伊都キャンパス(福岡市西区)へ移転を開始し、2007年(平成19年)3月には建築学科を除く5つの学科が移転を完了しました。また、建築学科も2018年9月には、移転を完了しました。

自然豊かな広大な敷地の中に世界的にも最先端の施設や設備を有する伊都キャンパスは、工学部のこれから100年先につながる新たな歴史を刻む学び舎として皆さんを迎えてくれます。



▲1914年(大正3年)九州帝国大学工科大学正面



▲箱崎キャンパス:旧工学部本館



「九州帝国大学工学部銘板」

1919年(大正8年)前身である工科大学が工学部と改称された際に製作されたと考えられる銘板。戦時中、多くの金属製銘板が戦時供出された中、現存する貴重な銘板。

2017年10月、工学部同窓会の基金により本銘板のレプリカのモニュメント(記念碑)を伊都キャンパスウエスト4号館横に建立。

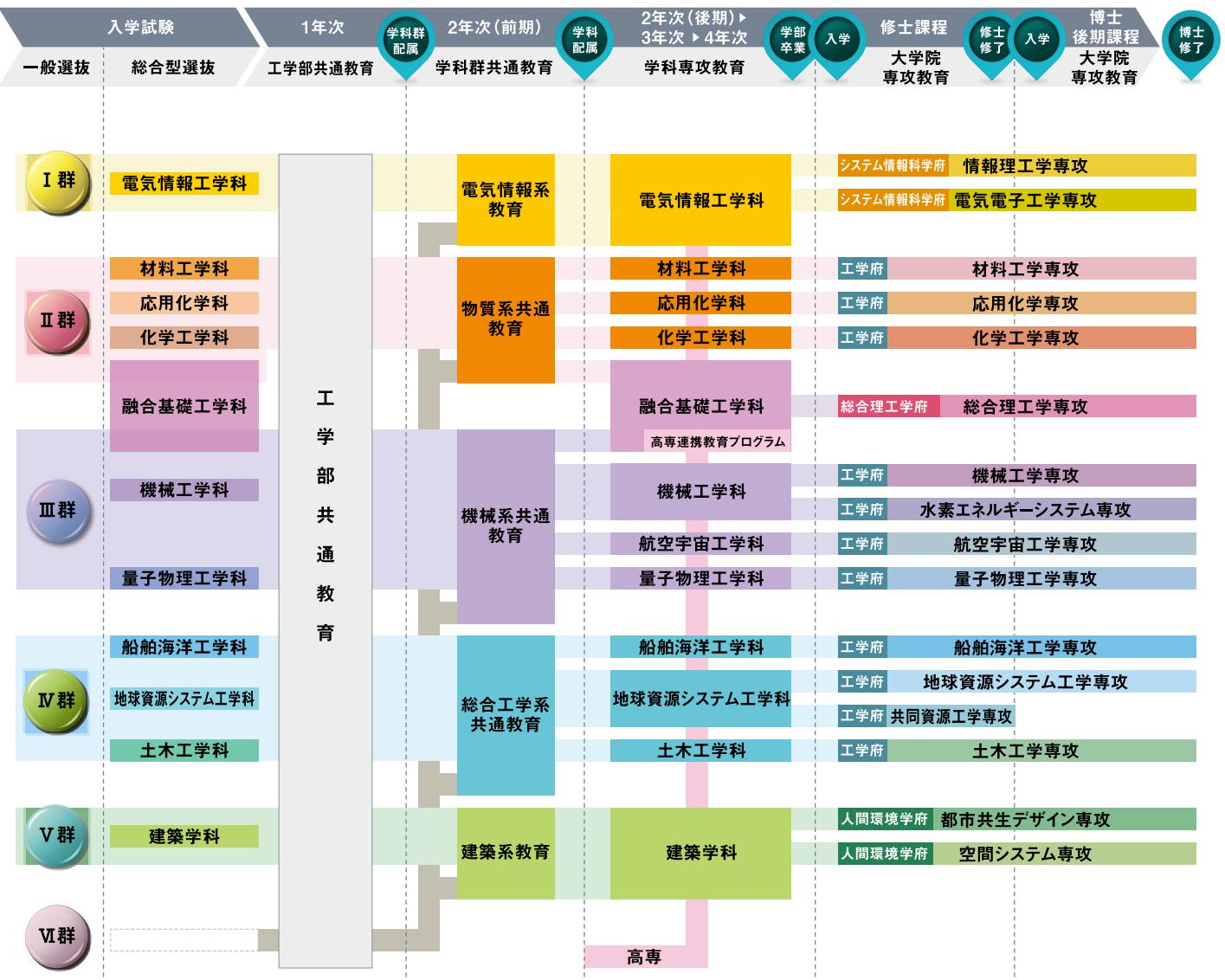
2021年度から九州大学工学部

学科一覧

電気情報工学科 Department of Electrical Engineering and Computer Science	P07	電気情報工学を専門として新しい技術開発を行い、それを通して安全・安心、持続可能で豊かな社会に貢献する人材を、計算機工学コース、電子通信工学コース、電気電子工学コースの3つのコースを設けて育成します。
材料工学科 Department of Materials	P08	材料工学を専門とし、物質を構成する原子や電子の微視的な振る舞いを理解して、材料の特性が発現する原理と概念に基づいた新材料の開発により持続可能な社会の発展に寄与する人材を育成します。
応用化学科 Department of Applied Chemistry	P09	化学を専門とし、物質の構造・性質・反応を原子・分子レベルで理解したうえで、原子・分子を設計・操作して新物質の合成や物質の変換およびプロセスの開発などを行って持続可能な社会に貢献できる人材を育成します。
化学工学科 Department of Chemical Engineering	P10	化学工学を専門とし、環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスなどの分野において、地球環境との調和と人類の福祉に貢献できる人材を育成します。
融合基礎工学科 Department of Interdisciplinary Engineering	P11	物質科学と材料工学を融合した物質・材料工学分野、または機械工学と電気電子工学を融合した機械・電気電子工学分野を主たる専門とし、情報科学を副専門としながら問題解決型学習に重きを置いた教育により、環境・エネルギー問題に代表される多様で複雑な課題に対応し、解決することができる工学系π型人材を育成します。
機械工学科 Department of Mechanical Engineering	P12	機械工学を専門とし、主として物理法則の基礎理論を理解して、社会のニーズに応えるため、制約条件の下で環境への影響を考慮しながら機器やシステムを設計製作し、あらゆるモノづくりを支える人材を育成します。
航空宇宙工学科 Department of Aeronautics and Astronautics	P13	航空宇宙工学を専門とし、力学を基礎とした工学理論や、航空宇宙機開発特有のシステム工学に関連する基礎知識を有し、新しい航空宇宙機の開発や運用環境拡大によって生ずる課題を発見・解決できる人材を育成します。
量子物理工学科 Department of Applied Quantum Physics and Nuclear Engineering	P14	応用物理、量子科学、原子核工学を専門とし、新しい量子現象の観察やその応用、量子ビームの開発と医療・生命分野などへの応用、新規材料開発、エネルギー開発、環境保全等へ貢献できる人材を育成します。
船舶海洋工学科 Department of Naval Architecture and Ocean Engineering	P15	船舶工学、海洋工学を専門とし、グローバルな価値観に基づいて海洋と人類の共生への貢献を目的として、造船技術の継承・発展ならびに持続的な海洋開発を担う総合工学的な広い視野を持った人材を育成します。
地球資源システム工学科 Department of Earth Resources Engineering	P16	資源工学を専門とし、国際的に展開される地下資源の開発と供給、国内外における自然災害の防止技術の開発や地球環境への負荷を軽減する様々な技術の開発などを担う人材を育成します。
土木工学科 Department of Civil Engineering	P17	土木工学、環境工学を専門とし、構造物の設計・施工から、環境の保全、災害の防止に関する様々な知識を有して、自然や文化に配慮しながら安全・安心な国土を整備するとともに、国土の諸問題を解決できる人材を育成します。
建築学科 Department of Architecture	P18	建築学を専門とし、自身の知識と思考力で課題の本質を読み解き、変化する社会情勢に応じた環境のデザイン力と理論に裏打ちされた技術・技能により都市・建築に関わる課題の解決策を導き出せる人材を育成します。

は 12 学科に変わります。

入学から卒業・修了までの流れ



資料が充実した
図書館



井林 洸一さん
機械航空工学科 4年

伊都キャンパスには、中央図書館と理系図書館という2つの図書館があって、どちらもきれいで資料が豊富なところが魅力だと思います。私は調べ物をしたい時やテスト期間で集中したい時に理系図書館をよく利用しています。個人利用だけでなく、議論できるスペースもあります。

自然に囲まれた
伊都キャンパス



二宮 啓さん
地球資源システム工学専攻 博士 1年

伊都キャンパスは建物が新しく、自然に囲まれている点に魅力があると思います。周りは大自然で囲まれており、海・山どちらも楽しむことができます。芥屋の大門に行って生きた地質を肌で感じることができます。先駆的な研究を行いながら、快適な学園生活と豊かな自然を楽しむことができるのが最大の魅力です。

スーパー
コンピュータITO



高塙 大地さん
エネルギー科学科 4年

研究で大型の計算をするときにスーパーコンピューターITOを利用するのですが、その処理性能に思わずびっくりしてしまいました。日本の各大学が所有するスーパーコンピュータの中でもトップクラスの性能を有していて、計算をするだけではなく、AIやビッグデータを活用できるように作られています。

九州大学工学系の学部・専攻で学ぶ先輩 学びの環境はもちろんのこと、

Welcome

他学部の
学生との交流も



平川 舞さん
機械航空工学科 4年

伊都キャンパスは駅からは少し離れたところにあります。バスなどの公共交通機関が充実しているため通学に不便を感じることはありません。医学系を除くほとんどの学部がこのキャンパスに集まっているので、他学部他学科の学生と頻繁に交流したり他の学部の講義も受けることができるのも利点の一つです。

伊都に負けない
筑紫キャンパスの魅力



E-Caféで
リフレッシュ！



柏田 伸太郎さん
地球環境工学科 4年

キャンパス内の飲食スペースで私がよく利用するのが「E-Café」です。ランチはもちろん、出来立てのコーヒー・パン、スイーツ類も提供しているので、休み時間や放課後の軽食にも利用しています。テラス席もあるので授業で疲れた後の良いリフレッシュにとてもおすすめです。



▲「ミニカレー＆サラダセット」
350円



山田 果歩さん
物質科学工学科 4年

各研究室に、全国でも数台しかない最新で高価な機器がたくさんあり、実験で使うことができ、充実した環境で研究を行うことができます。特に私が実験で利用する「高圧NMR」はとても高価な装置で、物質の特定をするときによく使う機器の一つです。このような装置が利用できるのは九州大学ならではだと思います。



最新で高価な
機器が魅力

知識が豊富な
教授陣

秋山 立幹さん
物質科学工学科 4年



九州大学の教授方は、とにかく知識が豊富だと思います。最初は話しかけづらい雰囲気を醸し出している教授も多いですが、興味や疑問点をいざ問い合わせてみると、教授の豊富な知識をフル活用して優しく答えてもらえます。まずは勇気をもって話しかけてみてください。



周りからの刺激が
努力につながる

浜重 恵奈さん
電気情報工学科 4年



計算機工学課程では、座学と実験を通してハード・ソフトの両面からコンピュータを学んでいます。周りにはプログラミングが上手な人など、私よりもすごい人がたくさんいます。だからこそ、刺激を受けて自分ももっと頑張らなければなと思い、より高いところを目指して努力することができます。

たちが、キャンパスライフの魅力について語ります。
九州大学ならではの楽しさを知ってください。

message

先輩からのメッセージ



高岡 光希さん
地球環境工学科 4年

私は食堂やコミュニティルームがついた学生専門のアパートに住んでいます。同じアパートには様々な学部の人がいて、とても仲のいい友達ができました。一人暮らしはたまに寂しいと感じますが、一緒にご飯を食べられる人がいることは嬉しいものです。一人暮らし不安な人には、食堂付のアパートはおすすめです。



留学で知った
学びの貪欲さ



石本 大歩さん
建築学科 4年

テキサスA&M大学に留学しましたが、留学先では授業後には友達の家に行き、自分の専門分野を問わにも感銘を受けました。留学後には、疑問点に対して質問をすることをためらわないようになりました。

国際色豊かな
キャンパス

笹岡 陸人さん
工学府材料物性工学専攻 修士 1年



九州大学工学部にはさまざまな国からの留学生が多く、キャンパスを歩いていてもいろいろな言語が聞こえます。私は留学経験はありませんが、留学生と一緒に研究していくなかで、それぞれの価値観はもちろんのこと、その国ならではの食文化などをることができます。

学生が紹介する動画サイトもあるよ!



電気情報工学科

Department of Electrical Engineering
and Computer Science

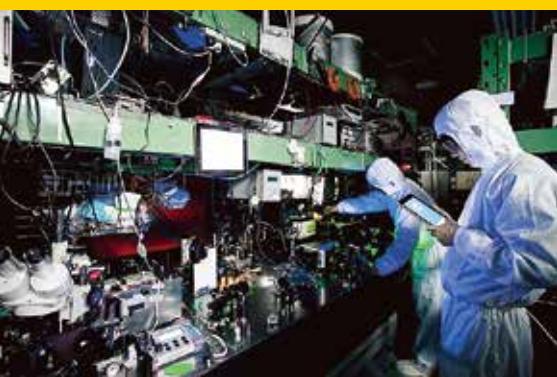


詳しく述べはwebサイトへ⇨

□ <https://www.eecs.kyushu-u.ac.jp>



機械学機械学習による動画像中の物体追跡



クリーンルームで安全安心の光技術を研究



Problem Based Learning によるロボット開発演習



超伝導と自動制御で実現する未来の飛行体



人間共生ロボット

論理と物理を基に、賢さ、快適さ、速さ、強さ、 安全安心を創る技術者と研究者の入口

スマートフォンで美しい写真を撮ることができます。これは、画像データを処理するソフトウェアと、レンズで捉えた光をデータに変換するハードウェアとの連携で実現しています。このように電気情報工学分野はソフトウェア・論理とハードウェア・物理が密接に連携して常に発展を続けています。

Cyber Physical Systemは、現実であるフィジカルシステムからデータを取得し、コンピュータ上のサイバーシステムで処理・解析・判断を行い、その結果を現実世界に戻すことにより、私たちの生活や社会活動をより効率的で効率がよいものにし、新しい価値を創り出します。ここで必要となる、測りたい量をデータに変換するセンサ、データを伝送する通信、大量のデータを解析するデータサイエンス、解析結果に基づいて判断を下す意思決定、決定を現実化する制御、これらの装置類へのエネルギー供給はすべて電気情報工学分野に含まれます。電気情報工学は、私たちの生活や社会活動に、賢さ、快適さ、速さ、強さ、安全安心をもたらすことに大いに貢献しています。

電気情報工学科では、数学、プログラミング、論理回路、電気回路、電磁気学などの基礎を出発点として、計算機工学、電子通信工学、電気電子工学の3コースそれぞれに合った比重で、電気情報工学分野の論理と物理の両方を学びます。



◀詳しくはwebサイトへ □

□ <https://www.zaiko.kyushu-u.ac.jp>

材料工学科

Department of
Materials

物質を理解して原料を加工し、
開発された材料の性質や機能を解明し、
新たなモノ(材料)を創り出す技術者と研究者の入口



1600°Cの高温酸化物および金属融体の物理化学的性質の評価装置群

これまでの文明の発展は材料の進化に支えられてきました。例えば、自動車社会は鉄鋼材料の大量生産に、航空機による高速輸送はジュラルミンの発明に、情報化社会は半導体の発明に、といった具合です。周期表には118個の元素しか掲載されていないにもかかわらず、これらの元素の無限とも言える組み合わせから、様々な性質をもった材料が創り出されています。単に混ぜ合わせるだけでは無く、加熱、冷却、加工など様々な工程で新たな機能を附加しています。材料工学は、このように身の回りにあるあらゆる「モノ」のもととなる材料や素材を創り出すための基盤となる学問です。

材料工学科では、素材を原子のレベルでデザインして原料から材料にするためのプロセス工学、デザインした材料をさらに熱処理や機械加工することによって材料の強さや形を変えるための加工工学、そして材料の機能を高めるための機能工学などの知識を学修します。また、実習や実験を数多く行うことで、自ら手を動かして知識を自分のものにすることができます。さらには、材料解析や材料計算などの未知の新材料を創り出すといった、従来の枠を越えた分野も学ぶことができます。これから変わりゆく時代に柔軟に対応しながらモノ(材料)づくりを通して社会に貢献できるエンジニアや研究者の基礎を築くことができるのが、大きな魅力です。



チョクラルスキ法による新規熱電材料の単結晶作製



自ら創り出した燃料電池材料の評価

応用化学科

Department of
Applied Chemistry



詳しくはwebサイトへ⇨

□ <https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/chemistry.html>

化学で人の暮らしを豊かにし、
持続可能な社会の構築に資する
学問を追究します



共焦点顕微鏡での画像解析



研究室での実験の様子



研究室でのセミナーの様子



光学顕微鏡による資料観察

応用化学は物質を自在に設計し、新しい機能と価値を創造する学問です。多様な分野と融合しながら、社会を支える学問として益々発展しています。本学科は機能物質化学コースと分子生命工学コースで構成されており、化学の分野を網羅する基礎科目に加えて、世界トップクラスの研究成果を生み出す教育

・研究環境を整え、実践力、表現力や提案力を磨く充実したカリキュラムを用意しています。機能物質化学コースでは主に高分子材料・無機材料を用いる触媒材料、複合素材、エレクトロニクス、ナノデバイスおよびそれらを支える理論解析を研究し、分子生命工学コースでは有機材料、分子集積材料、エネルギー材料、バイオテクノロジーやヘルスケアを研究しています。学士課程では両コース共通の科目を多く設けているのに対し、修士課程ではそれぞれの専門に応じてより最先端の科目を自らが決めて履修する目的指向型のカリキュラムとなっています。本学科では、様々な分野を幅広く俯瞰する基礎力を備えてながら、細分化された専門的な領域にも対応できる人材の育成を目指しています。卒業生は、化学分野をはじめ、バイオ・医薬、電子・情報、機械・自動車、環境・エネルギーなどの幅広い分野における専門家として活躍しています。

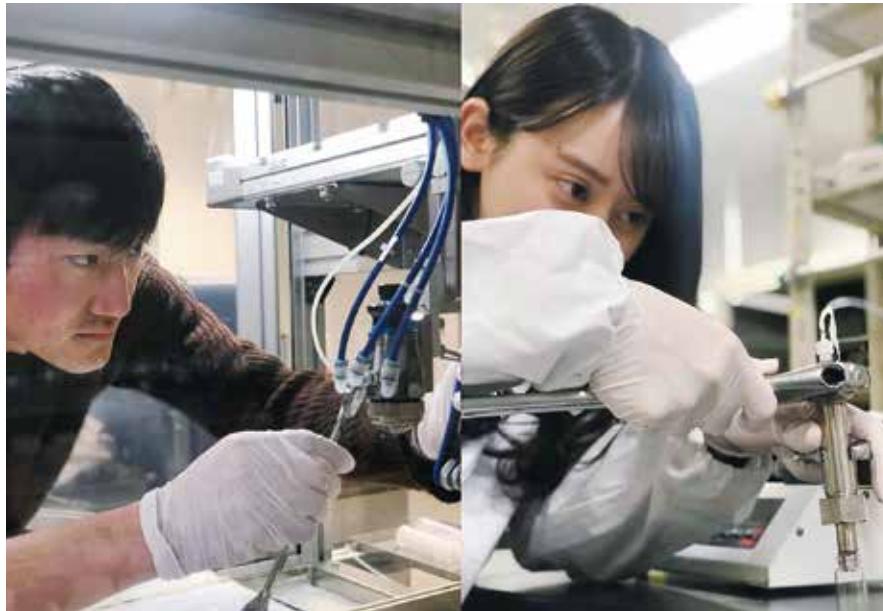


◀詳しくはwebサイトへ

<http://www.chem-eng.kyushu-u.ac.jp>

化学工学科

Department of
Chemical Engineering



新材料・新現象を 社会で実現化する力

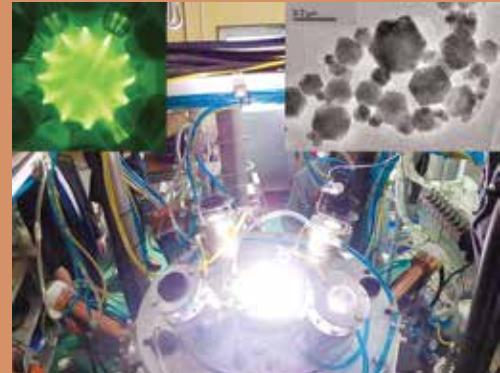
現在、さまざまな材料の開発や新現象の解明が進められていますが、社会で活用されるためには、乗り越えるべき高い壁が立ちはだかります。化学工学は、基礎研究を実現化するための架け橋となる学問です。近年では、生命、ナノ材料、環境、エネルギー、宇宙技術などの幅広い分野の発展に不可欠な学問となっています。

生命分野では、新規遺伝子導入技術、遺伝子組換え鳥類によるバイオ医薬品生産、副作用のない癌治療技術、臨床用バイオ人工肝臓、機能性生体材料による臓器再生技術などを開発しています。これらは日々の暮らしから高度先進医療分野で活用されます。

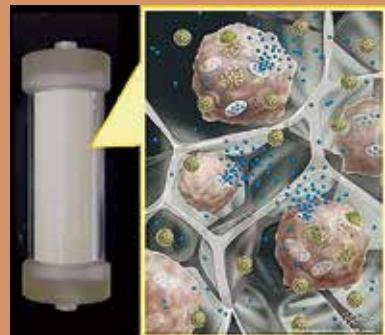
環境・エネルギー分野では、燃料電池、蓄電池、熱利用技術、排ガス処理、化学プラントを対象に、新規合成・分離技術を生み出し、また複雑な現象をシミュレーションにより明らかにし、高性能化に活かすことができます。

ナノ材料分野では、有機から無機にわたる幅広い物質系で進めており、ナノメートルのサイズ、形状を制御した材料の開発、それに由来して現れる、新しい物性、現象を検討しています。こうした材料は、バイオからエネルギーに至る産業分野で活用されます。

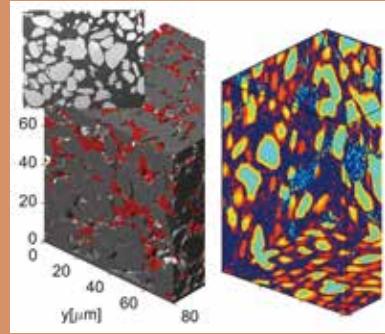
このように高い専門能力に加え、世界的な視野で合理的に評価、設計する基礎を築くことができます。



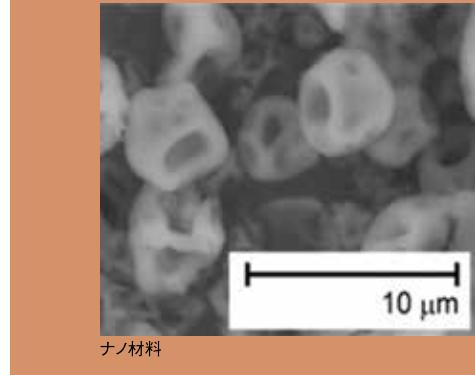
多相交流アーケープラズマ装置による新規材料合成



人工肝臓システム



電池内シミュレーション



ナノ材料

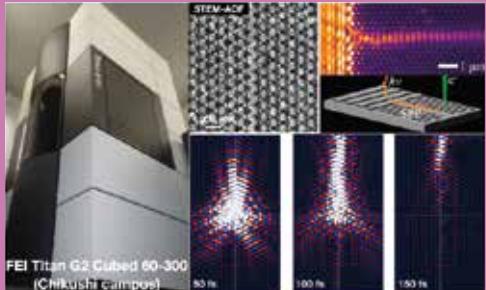
融合基礎工学科

Department of
Interdisciplinary Engineering

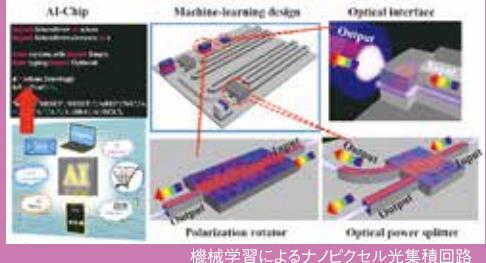


□ 詳しくはwebサイトへ⇨

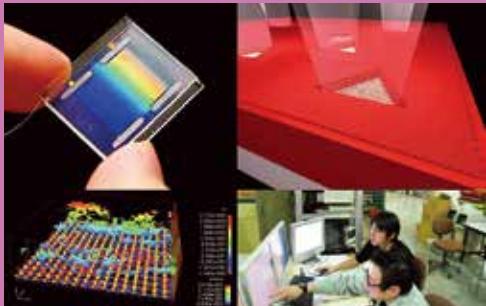
□ <https://www.ieng.kyushu-u.ac.jp>



原子分解能電子顕微鏡の高速画像積算による高解像観察



機械学習によるナノピクセル光集積回路



情報科学ベースの環境学、放射光測定、薄膜デバイス、原子層制御



ニューラルネット制御イオンエンジン



“工学系分野の融合”×“情報科学”を基軸とし、
広い視野と実践的な行動力をもったAI時代のリーダーを創出



世界が抱える諸問題の解決には、1つの専門分野だけではなく複数の分野を融合し、さらに情報科学（AIやデータ科学）を駆使することにより、革新的な技術・価値・概念を創出し、イノベーションを実現できるリーダーが求められています。例えば、データ科学を駆使した、従来理論では予測・設計できない革新的な物質・材料の創製、高分解能電子顕微鏡やシンクロトロン光などの最先端計測技術と理論計算の融合による超高性能材料・デバイスの創出、EV用インテリジェント蓄電池や宇宙機推進用AI制御イオンエンジンの開発、ビッグデータ解析とマルチスケール計算に基づく複雑な社会・地球環境変化の予測などを主導できる技術者や研究者です。

融合基礎工学科で学ぶことができる専門分野は、主要な産業や最先端研究において基礎となる工学分野を横断的に融合させた2つの分野 — 1) 無機・有機材料や半導体デバイスの基礎となる物質科学と、材料のダイナミックな挙動を解析する材料工学を融合した物質・材料工学分野、2) 熱やエネルギーの流れや物質の移動を解明する機械工学と、電磁気学や電子工学、量子物理学に基づく電気電子工学を融合した機械・電気電子工学分野 — です。これらの分野に対応する「物質材料コース」と「機械電気コース」を設置し、各コースの学びを通じて『専門力』（専門知識や技能）を修得します。また、専門分野と情報科学との融合を促すために学科共通の情報系科目を学び、各自の専門分野でAIやデータ科学を活用できる『情報応用力』を修得します。さらに、問題解決型学習に重きを置いた学びにより、物事を広い視野で捉え、課題解決方法を自ら発想し実行できる『俯瞰力』と『実践力』を身に付けます。

イノベーションの創出に不可欠なこれら4つの力を併せもつ工学系π型人材を育てる本学科の学びを通じて、持続可能な社会の構築に向けた課題に果敢に挑戦する技術者や研究者の基礎を築くことができます。

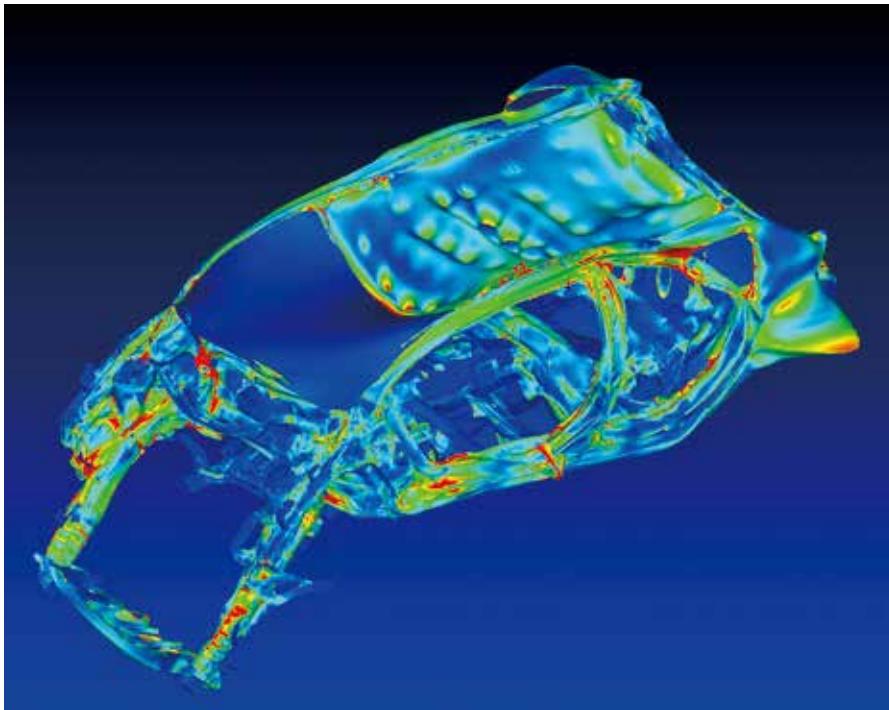


◀詳しくはwebサイトへ □

□ <http://www.mech.kyushu-u.ac.jp>

機械工学科

Department of
Mechanical Engineering

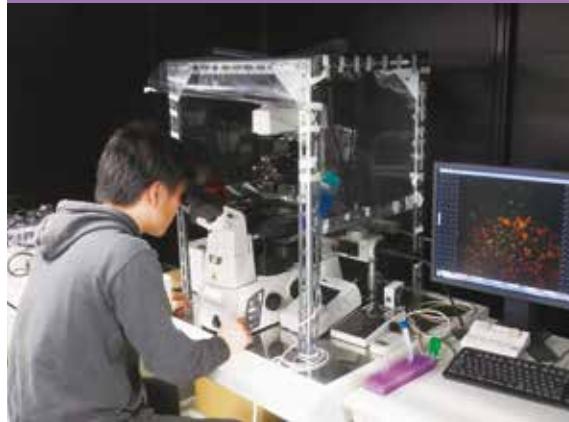


自動車部品の振動解析例

あらゆるアイデアや技術を 形あるものにする機械技術者と研究者の入口

機械工学は、スマートフォン、コンピュータ、家電製品、空調機、自動車、飛行機などの身近なモノ、ロボット、医療器械、建設機械、工作機械、食品機械など専門分野で活躍するモノ、発電所や燃料電池などエネルギーを供給すためのモノやシステム、さらにはそういった「見える」モノに使われている部品や素材など、あらゆるモノを作るための基盤となる学問です。

機械工学科では、安全で安心できるモノを作るために必要となる材料力学、機械力学、流体力学、熱力学・伝熱学、設計法、制御、加工技術など、あらゆる基礎知識と概念を学修するとともに、実習、実験、製図など自ら手を動かしてそれらの知識を自分のものにすることができます。そして、全体を通して、様々な観点でバランスを考えて判断するものとの見方を身につけます。さらに、生体工学や水素利用技術など、生物・医療やエネルギー・材料など従来の枠を越えた分野も学ぶことができ、これから変わりゆく時代に柔軟に対応するだけでなく、新しい時代を自ら切り拓くことのできる技術者や研究者の基礎を築くことができます。



共焦点レーザ顕微鏡での観察実験



学生の研究打ち合わせ



大型放射光施設SPring-8での
高分解能X線トモグラフィー実験



金属材料多結晶組織の
超高分解能3D観察



柔軟なロボット開発による脳卒中患者などの
手指リハビリテーション支援

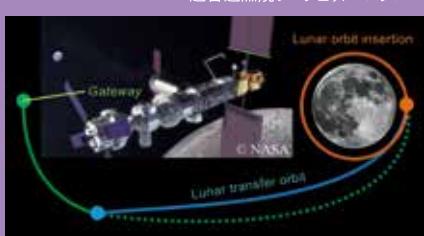
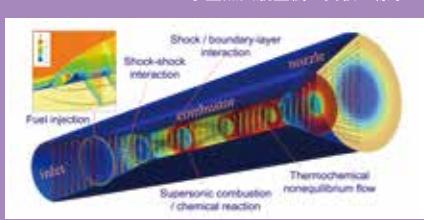
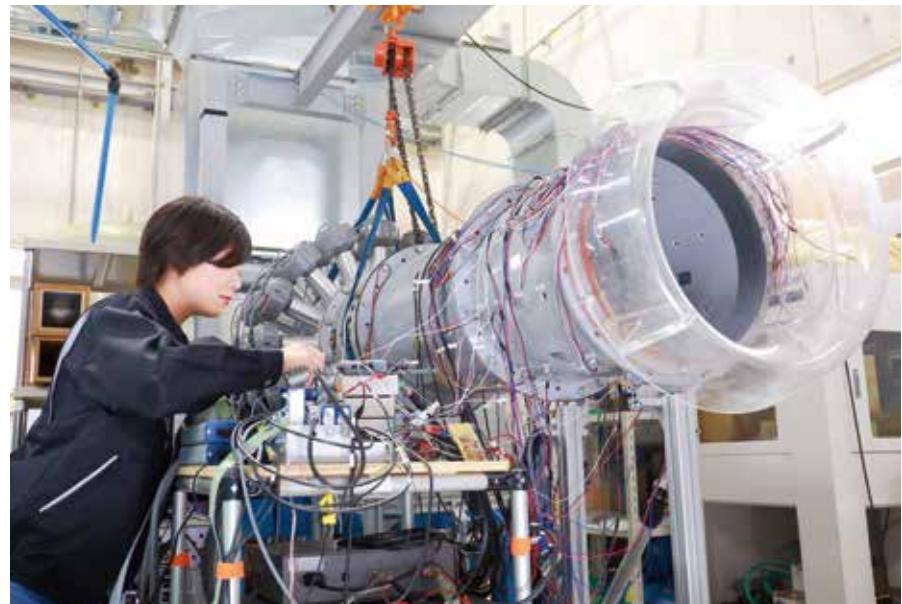
航空宇宙工学科



Department of
Aeronautics and Astronautics

詳しくはwebサイトへ⇨

https://www.aero.kyushu-u.ac.jp



最先端の知識と技術を結集し、 空と宇宙のフロンティアを切り拓く 夢へ踏み出す第一歩

日本の航空宇宙開発は近年急速に進展しており、はやぶさ1・2号機による小惑星探査は記憶に新しく、新型国産ジェット旅客機や次期基幹ロケットH3、月や火星を目指す深宇宙ミッションも進行しています。また、超音速旅客機や電動航空機といった次世代モビリティの開発も活発に進められています。

空を飛び宇宙を切り拓くには、正確な法則と現象の理解、先進的な技術に基づく緻密な設計・製造・運用が必要です。航空宇宙工学は、様々な領域の原理を探求し、最先端の技術と英知を結集することにより、空と宇宙をより安全・身近にし、活用・開拓することを目指す学問分野です。航空宇宙工学科は、航空機や宇宙機の開発に不可欠である、基礎知識と応用的アプローチ、実践的スキルを身につけ、総合的な視点と考え方を育むためのカリキュラムを備えた学科です。

本学科は、日本人初の国際宇宙ステーション船長となった宇宙飛行士の若田光一さんをはじめ、宇宙開発や航空産業の第一線で活躍する人材を数多く輩出しています。また、JAXAや企業、海外との共同研究も盛んに行っており、研究者・技術者としての道を踏み出すには最適の場所です。皆さんも航空宇宙工学科で学び、空や宇宙の夢を追求し、現実に変えてみませんか？



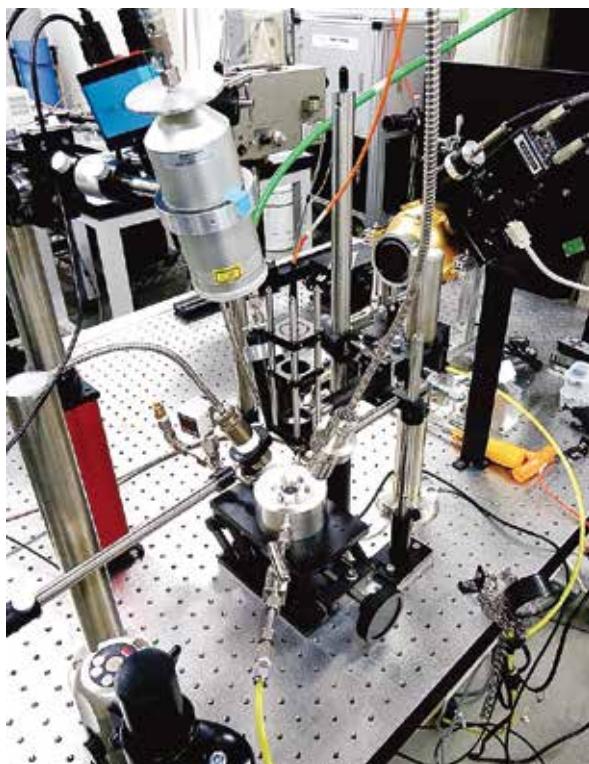
◀詳しくはwebサイトへ □

量子物理工学科

Department of Applied Quantum Physics
and Nuclear Engineering

□ <https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/quantum.html>

目に見えないミクロな物理現象の解明と応用で、 人類社会の発展に貢献する 技術者と研究者の入口



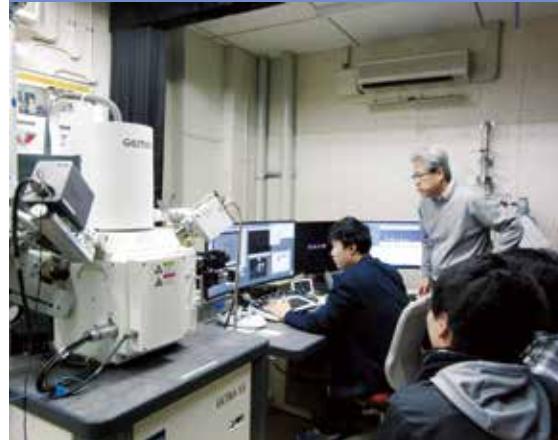
レーザーを使った無容器法高温融点測定装置

九大工学部に新設された量子物理工学科は、量子が持つ機能を物理学の立場で使いこなし、新しい技術を開拓する挑戦的な学問分野へとつづく道です。

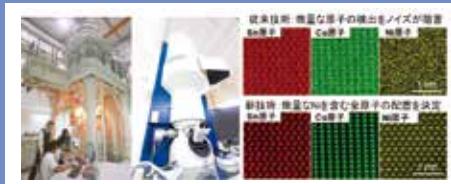
近代物理学の新しい学問体系である量子力学と相対性理論の出現はそれまでの物質や時間・空間に対する認識を一新させました。これにより原子核、原子、分子、電子などのミクロな実体から、その集合体である物質、さらには宇宙という巨大な世界までを体系的に理解できるようになりました。

同時に、この学問体系は半導体や超伝導体などの開発、加速器や電子顕微鏡を用いた先端計測、放射線・粒子線を用いた医療応用、原子力や核融合などのエネルギー開発といった様々な技術の基盤となり、我々の生活を豊かにしてきました。これからも、スマート社会を支える高度な情報処理技術やデバイス、医療や先端研究で用いる高感度センサー、将来のエネルギー源、環境保全の基盤技術など、量子物理は最先端の技術創成に欠くことができません。

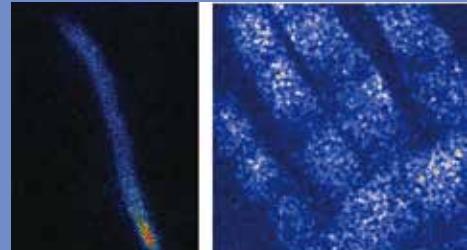
量子物理工学科では量子力学や相対性理論とともに力学、電磁気学、熱力学、統計力学などの現代物理学を構成する基礎的学問を系統的に学修します。その上で応用物理学、量子ビーム、加速器工学、原子核/原子力工学などについても学ぶことで量子物理の基礎と工学応用へのセンスを身につけます。これにより、大きく変わりゆく時代に柔軟に対応し、新しい時代の科学と工学を自ら切り拓いていく力強い技術者や研究者を育成します。



実験風景



超高圧電子顕微鏡と世界最高水準の計測感度をもった分析電子顕微鏡



超々高感度カメラで撮影した細胞呼吸の副産物として生じた活性酸素分子から放出された光量子(植物根と人の掌)



慣性静電閉じ込め核融合プラズマ

船舶海洋工学科

Department of Naval Architecture
and Ocean Engineering



詳しくはwebサイトへ⇨

□ <http://www.nams.kyushu-u.ac.jp>



大型円筒部材の疲労強度試験



高速回流水槽を使った船体抵抗試験



船舶運動性能試験水槽(長さ38.8m×幅24.4m)



レーザ・アークハイブリッド溶接実験装置



船の進水式

造船技術の発展と持続的な海洋開発を行い、 海と人類の共生に貢献できる技術者・研究者への扉

国土を海洋に囲まれた我が国の将来の発展には、社会・生活を支えるエネルギー・資源の調達や生産物の供給のための海上輸送、海洋資源開発、食糧生産等の海洋の有効利用が必要になります。

本学科では海洋の有効利用のための技術修得を目的に、工学基礎である構造、流体、熱、材料、制御などの幅広い技術分野を修学するだけでなく、巨大な船や海洋構造物を実際に設計・建造し統合化してゆくための総合工学を身に付けられるよう特色あるカリキュラムを編成しています。

カリキュラムの中には、多面的に実物を見るために、造船工場や製鉄所見学、3年次の工場実習を用意しています。また、自ら大型船を設計し、その図面を一通り描き上げる設計演習も組み入れています。一方、船や海洋構造物の計画・設計、生産管理には情報技術の利用が不可欠であることから、プログラミング、数値解析・シミュレーション、コンピュータ支援設計、AI・機械学習に関する教育を取り入れています。

本学科の卒業生への評価は高く、就職時の求人数は卒業生の数を大幅に上回り、学生は各自が希望する輸送機器、重機・重工業の他、多様な業種の企業および研究機関等に就職しています。また、多くの学生が大学院修士課程、博士後期課程に進学して、より高度な勉学と研究に励んでいます。



地球資源システム工学科

◆詳しくはwebサイトへ □

□ <http://www.mine.kyushu-u.ac.jp>

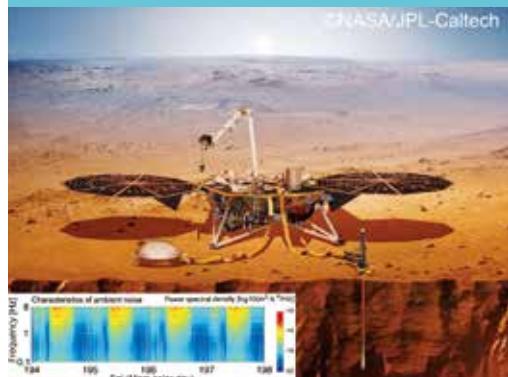
Department of
Earth Resources Engineering

世界で地球規模の問題に取り組む

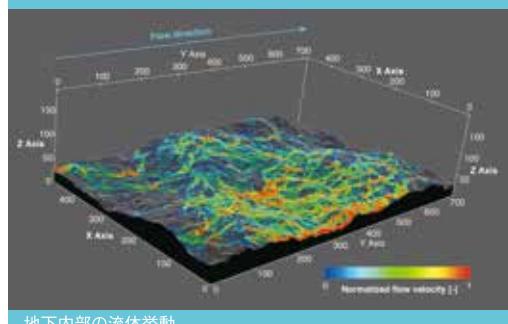


地球資源システム工学科は、私たちの豊かな生活を支えている地球の資源・エネルギーに関する様々な課題に取り組んでいます。石油・天然ガス・鉱物・地熱など、私たちの暮らしに不可欠のエネルギー資源や、素材の原料となる地下資源の探査・開発・採掘・分離回収のほか、防災、リサイクルなどの研究を実施しています。またCO₂の削減に向けたCO₂地中貯留の研究、メタンハイドレートや海底熱水鉱床（レアメタル）といった新しい資源エネルギーの獲得に向けた研究、さらには地球を飛び出して、月や火星といった宇宙空間での資源探査・開発に向けた研究も実施しています。

当学科では資源・エネルギーの探査から開発、利用、修復といった一連の資源開発プロセスをカバーできるように研究室が配置されており、資源・エネルギーに関する専門的な知識を幅広く身につけることができます。3年次には国内外の関連企業でインターンシップが予定されており、フィールドワークを通して資源・エネルギーに関する技術を体験することができます。研究室では日常的に多くの留学生と関わり、議論しながら卒業研究に取り組みます。幅広い学問分野を扱うことから、専門性を深めるためには自発的・主体的な学習姿勢が欠かせません。当学科で挑戦を続ける学生には、世界での活躍への扉が常に開かれています。



火星での資源探査



地下内部の流体挙動



火口の噴気活動調査

土木工学科

Department of
Civil Engineering

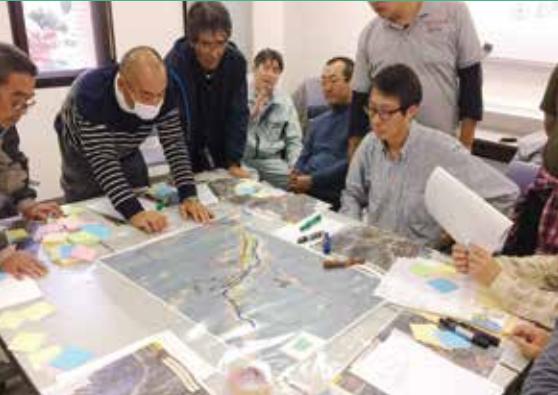


詳しくはwebサイトへ⇨

💻 <https://www.civil.kyushu-u.ac.jp>



「プロジェクトものづくり」の実習では、実際に橋や石積みを作ります。土木材料学や構造力学などで学習したことを基礎として、与えられた条件のもとで製作課題に取り組みます。



平成29年7月に発生した九州北部豪雨からの復興にあたり、九州大学では復興支援団を結成し、復興支援に取り組んできました。写真のように、集落会議で地元住民と地域の復興について話し合いを重ねています。



嘉瀬川から多布施川へ水を分ける水利施設である石井樋は、元和年間(1615～1624)に造られ、洪水により破壊されていましたが2005年に復元されました。象の鼻、天狗の鼻などの構造物で土砂の混じった川の水を綺麗にし、現在でもなお、佐賀城下の暮らしを支えています。環境の復元も土木工学の仕事です。



長崎県 針尾の瀬戸に架かる西海橋。戦後、物資が不足する中で、土木技術者が知恵を絞り、急流をひとまたぎするアーチ橋が建設されました。完成後65年を経た今もなお、わが国を代表する美しい橋です。

持続的で豊かな国土や 都市を構築するための技術を学ぶ

土木工学は、私たちが安全・安心で豊かな暮らしを営むために必要となる国土の基盤（都市、道路、河川、海岸、山林など）を整備・保全するための幅広い学問です。頻発する災害に対する防災技術、人工的な都市と自然や生態系との調和を目指すグリーンインフラ、ビッグデータを使った次世代型の交通サービス、耐久性のある構造物を構築するための新素材の開発なども土木工学の分野です。

土木技術は人類の歴史とともに発展してきました。道路、橋、上下水道、鉄道、港などによって現代の社会は成り立っています。世界ではいま、環境・社会・経済の問題が山積しています。土木工学は、伝統的な技術を継承・発展させるとともに、最先端の技術（AI、自動運転、5Gなど）を取り入れながら、50年後、100年後、その先の未来を見据えた持続的で豊かな国土や都市を構築していきます。

変化の激しい世の中で、さまざまな技術やアイディアを結びつけ、国内・国外を問わず、それぞれの地域で市民の暮らしを豊かにできる土木技術者 (Civil engineer) が必要とされています。土木工学科では、卒業後に第一線でCivil engineerとして活躍できるよう、専門知識だけでなく、マネジメント力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、倫理観を養うことができます。



◀詳しくはwebサイトへ □

□ <https://www.arch.kyushu-u.ac.jp>

建築学科

Department of
Architecture

住宅から都市に至る人間の多様な生活に密着した空間を造り出す建築家や技術者、研究者を養成します。



自然の中のスパ「Colobockle Nest」／第7回LIXIL国際大学建築コンペ 最優秀賞

ばかりでなく、芸術的な造形能力も求められます。建築学科では、住宅から都市に至る人間の多様な生活に密着した空間をつくり出すために、建築・都市の文化を歴史的に顧みながら、建築・都市を理論的に計画し、具体的な形に設計する方法、快適・健康な環境をつくり出すための環境工学、壊れない建物をつくるための建築構造技術、建築を構成する材料とその施工技術などについて教育・研究を行っています。

本学科のカリキュラムは、建築学に関わる諸知識を体系的・理論的に学ぶための講義科目、具体的なデザイン手法を習得するための設計演習科目、専門的知識を体得するための演習・実験科目などがバランスよく組み込まれ、充実した内容となっています、このような教育を通じて、工学的技術や建築文化についての幅広い教養を修得し、国際社会の第一線で活躍する建築家や技術者、研究者を養成します。

建築は使いやすく快適で、美しくて、しかも丈夫でなければなりません。建築学は、技術的问题から社会的・文化的問題にまで及ぶ極めて広い領域にかかわっており、建築・都市の分野に携わる者は、これらの多様な要素を総合的にまとめあげてゆく能力が必要とされます。そして、総合的な技術・知識の理解が要求される



海外英語研修プログラム



環境シミュレーションによるZEB(ゼロエカルギーハウス)の実現



木質梁の曲げ実験

地震被害(2016年熊本地震)



学部や学科を超えた出会いはきっと宝物になるよ！

Circle 【創造工房】

九州大学「創造工房」は、学生の自主性、創造性を発揮する機会となる活動を積極的に支援しています。学生の自由な発想をもとに、創意・工夫を具現化する機械、機構を製作するためのワークショップを有し、工学部の支援のもとで運営されています。

プロジェクトの活動は学生に委ねられており、綿密な年間計画をたてて審査をパスした学生チームが活動資金を受けて創造工房で活動できます。現在は「ロボコン」、「ヒューマノイド」、「学生フォーミュラ計画」、「PLANET-Q」の4チームが活動しています。



PLANET-Q

機体全長3m、高度数kmのハイブリッドロケットの開発・運用、小型模擬人工衛星CanSatの開発・実験、モデルロケットの作成を行っています。また、小学生向けに企業と合同でモデルロケット教室や紙飛行機教室を行っています。一番の魅力は大学生の時期に宇宙開発に取り組めることです。設計やプログラムの知識を身に着けることができます。

- 2019 伊豆大島共同打上実験で高度1km達成
- 2019 種子島ロケットコンテスト CanSat部門準優勝
- 2019 種子島ロケットコンテスト CanSat部門安全賞



学生フォーミュラ計画

小型レーシングカーの設計・製作を通して「ものづくり」を学びます。マシンの設計、製作はもちろん、走らせるところも自分たちで行います。溶接や工作機械を使っての製作など、工学部にいてあまり体験できないことを体験できるのも魅力の一つです。近年の成績はあまりよろしくはないですが、ここからの飛躍を目指して頑張っています。

- 2017 全日本学生フォーミュラ大会 94チーム中74位
- 2018 全日本学生フォーミュラ大会 92チーム中70位
- 2019 全日本学生フォーミュラ大会 92チーム中71位



ロボコンチームKURT

メインの活動はロボット製作で、設計から制御まですべて自分たちで行います。「NHK学生ロボコン」への出場をはじめ、夏休みの「九州夏ロボコン」を開催＆出場。参加する大会は毎年与えられる課題が変わり、まったく違うロボットを作ることになるので、さまざまな設計や技術にどんどんチャレンジできるのが一番の魅力です。

- 2018 NHK学生ロボコン ベスト4・アイデア賞・特別賞
- 2019 NHK学生ロボコン ベスト4・デザイン賞
- 2019 キャチロボバトルコンテスト 準優勝・ベスト8



ヒューマノイドプロジェクト

「二足歩行ロボットの製作を通じたものづくりの基礎知識・技術の習得」と「競技大会や科学イベントにおける他のエンジニアとの交流」を目的にし、世界最大規模の二足歩行ロボットによる格闘技大会「ROBO-ONE」での優勝を目指しています。ロボットの設計・加工・制御を一から行っており、さまざまな知識を実践的に学ぶことができます。

- 2020 YOKAロボまつり 1kg以下部門第3位・2kg以下部門優勝・3kg以下部門優勝
- 2020 第39回ヒューマノイドカップ 優勝・第3位
- 2020 ROBO-ONE Light 準優勝、ROBO-ONE ミスミ賞・フタバ賞受賞

世界とつながるチャンスはいくらでもあるよ！

Study abroad【工学部生のための留学プログラム】

ELEP(イーレップ):Engineering Leaders English Program

米国カリフォルニア州「サンノゼ州立大学 I-Gateways」での英語研修を中心に、起業家やベンチャーキャピタルの方々の講義やシリコンバレーにある大学やハイテク企業等へのフィールドトリップ等に参加しながら英語力をブラッシュアップする工学系学生向けの5週間の短期プログラムです。英語力アップに加えて、アントレプレナーシップ(起業家精神)の実態に触れ、イノベーションが起こる仕組みを学ぶことができます。



ELEP留学体験談



物質科学工学科4年(留学当時2年)
修猷館高校(福岡県)出身
島内 大輝さん
留学先:サンノゼ州立大学(アメリカ)

世界の最先端で経験したこと

私はELEPのプログラムで、世界をリードするIT企業の集まる街、シリコンバレーに5週間留学しました。留学して一番よかったと思うのは、日本や世界に対する考え方方が変わったことです。

ELEPのプログラムでは大学で英語を勉強するだけでなく、シリコンバレーの企業を訪問したり、現地の方の講演を聞いたりします。その研修で学ぶのは新しい製品を生み出すことの大切さと、そのためのマインドセットです。中でも「新しいものを生み出すためにはたくさんトライして、たくさん失敗しなければならない」という考え方方が印象に残りました。日本人の人は失敗を恐れてリスクを避けることが多いので、自分たちのそういう意識を変えていかなければ成長できないと思いました。

私はELEPで留学するまで海外に行ったことがなく、そこまで海外に興味があるわけではありませんでした。それでも自分の意識の何かが変わるのはないかと思って海外に行ってみると、日本にいるだけではわからない様々なことが見えてきました。他の国の文化や考え方方に触れてこそ分かる、日本のいいところや悪いところがあると思います。そのように視野を広げるという意味で、この海外留学は非常に意義があるものだったと思います。



▲ヨセミテにて

▲デザイン思考ワークショップ

Q²PEC(キューベック): Qshu-Queensland Program for English Communication

オーストラリア屈指のクイーンズランド大学付属語学学校 ICTE-UQ (Institute of Continuing & TESOL Education)において世界各国からの留学生と交流しながら行われる工学系学生向けの5週間の短期プログラムです。工学系の研究室訪問やフィールドトリップなどにも参加しながら実践的な英語力を向上させるとともに、グローバルマインドの滋養や長期間の学位留学に向けたモチベーションアップを目指せます。

(※コロナウイルスの影響により2020年度はオンラインで実施)



Q²PEC留学体験談



機械航空工学科4年(留学当時2年)
修猷館高校(福岡県)出身
高尾 梓さん

新たな発見

九大に入学し、留学生と友人になり、日本以外の国を知るにつれて、自分の目で海外を見てみたいと思い、Q²PECへの参加を決めました。

現地では、多種多様なバックグラウンドを持つ方々と出会い、日々刺激を受けました。サウジアラビアからきた友人は、宗教上の理由から自己のみの露出のため表情が見せられないことを気にしていました。しかし、彼女が、相手を理解しようとする気持ちと思いやりは、私に確実に届いていました。彼女とはたくさん会話をし、留学の終盤には、伝統料理Kabsaなどの文化を体験させてもらいました。外国の友人と関わるうちに、自分が知っていることはごく一部で、その中には偏見も含まれていることに気づかされました。

語学面では、渡航前に日本で出会ったUQのバディから、英語が上手になったねと言われて嬉しかったです。しかし、振り返ると、英語力の向上それ以上に、

たい自分を見つかったことが収穫でした。オーストラリアで過ごした6週間と、素敵な方々との出会いは私の宝物になりました。



▲語学学校の友人と寿司屋で



▲ホストファミリーと食事中

九州大学での“学び”が、社会を動かす力になる。



MESSAGE

OB・OGメッセージ

永松 博晶さん

九州旅客鉄道株式会社 長崎鉄道事業部 勤務
(都市共生デザイン専攻 2012年3月修了 工学部 建築学科 卒業)



昨年まで建設工事部施設課に所属し、筑肥線に新しく新設された新駅「糸島高校前駅」と篠栗線・篠栗駅の「自由通路新設工事」、九州新幹線の「新水俣駅改良工事」を担当しました。JR九州で行う仕事は公共性/社会性が非常に高く、責任も大きいですが、その分やり遂げたときの達成感は想像以上で、やりがいの大きさを感じています。九州大学で培った「自分の頭で考える力」と「プレゼン力」は、現在の仕事をする上で非常に役立っています。

山中 友輔さん

株式会社NTTドコモ ドコモCS九州 無線アクセス建設部 勤務
(電気電子工学専攻 2018年3月修了 工学部 電気情報工学科 卒業)



皆さんの携帯電話に電波を送るためのアンテナ設備の設計をしています。10年前は夢でしかなかった世界を現実にするためには通信ネットワークの構築が必要不可欠であり、その業務に携わることで常に「ワクワク」を感じています。私が九州大学で経験した、研究テーマの考案から研究計画の立案、実験、実験結果の分析、対外発表までの一連のプロセスは、仕事のゴールを定め、そこに至るまでに何をすればいいのかを考える習慣として身についています。

浅野 道春さん

日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 厚板部 厚板技術室 勤務
(材料物性工学専攻 2017年3月修了 工学部 物質科学工学科 卒業)



厚板とは板厚4.5~200mmの鉄鋼製品の総称です。主な業務は、設備能力を最大化する操業条件の検討や大量の操業データから時間や素材の効率を極限まで高める「生産管理」と、更なる能力向上を図りながら最も効果的な投資を行う「設備投資」で、スケールの大きさにやりがいを感じています。研究室で学んだ鉄鋼材料の知識は様々な場面で活かされていますし、研究活動を通じて「仮説を立てて検証する」という仕事の基礎も身につけることができました。

花木 陽人さん

株式会社鴻池組 土木事業総管本部 環境エンジニアリング本部 環境企画部 勤務
(都市環境システム工学専攻 2015年3月修了 工学部 地球環境工学科 卒業)



私は環境関連事業について設計や技術開発を行っています。また、汚染された土壤や地下水などを浄化するための新技術や、災害廃棄物や不法投棄廃棄物を確実に分別するための新技術の開発も行っています。地球環境工学科の建設都市工学コースで学んだ土木の知識、研究室で手掛けた廃棄物全般に関する研究は、現在の仕事に大いに生かされています。当初から環境に関する仕事がしたいと思っていた私にとって、九州大学での学びは非常に有意義でした。

鈴木 貴人さん

株式会社フリーランス 代表取締役
(エネルギー量子工学専攻 2010年3月修了 工学部 エネルギー科学科 卒業)



小規模企業専門に、フリーの専門家による業務代行チームを提供する会社を立ち上げました。私は昔から人の役に立つことが好きで、エネルギー科学科を選んだ理由もエネルギー問題の解決に貢献することで多くの人の役に立てると思ったからです。分野こそ違いますが、今の仕事も多くの人々の問題を解決し役に立てる仕事をだと思っています。経営は大学の研究活動に似ていて、大学の論文制作や学会発表の過程で学んだものが私のスキルの基礎になっています。

塘 陽子さん

九州大学 大学院工学研究院機械工学部門 助教
(航空宇宙工学専攻 2019年3月修了 工学部 機械航空工学科 卒業)



4月から熱物質移動研究室の助教に着任し、ナノテクノロジーとバイオテクノロジーを融合した新しい熱制御技術に関する研究を行うとともに、研究室で学生の研究指導も行っています。先生方や技術職員の方々、学生と一緒に試行錯誤を繰り返し有意義な成果へと結びついたときの喜びは計り知れません。九州大学での出会いと経験が研究者の道に進むきっかけであり、ここで培った経験と知識、人との繋がりは研究の基盤であり間違いなく一生の財産です。

主な就職先リスト

建築学科	電気情報工学科	物質科学工学科	地球環境工学科	エネルギー科学科	機械航空工学科
・修士課程修了後の就職先例)	・修士課程修了後の就職先例)	・修士課程修了後の就職先例)	・修士課程修了後の就職先例)	・修士課程修了後の就職先例)	・修士課程修了後の就職先例)
・国土交通省	・NTTコミュニケーションズ	・材料工学科	・船舶海洋工学科	・融合基礎工学科	・機械工学科
・防衛省	・NTTデータ	・応用化学科	・地球資源システム工学科	・量子物理工学科	・航空宇宙工学科
・各県庁	・NTTドコモ	・化学工学科	・土木工学科		・融合基礎工学科
・各市役所	・NTT西日本				
・国連ハビタット（国際連合人間居住計画）	・QT net	・修士課程修了後の就職先例)	・旭化成	・日立製作所	・IHI
	・KDDI	・三井化学	・環境省	・JFEスチール	・JFEエンジニアリング
・日建設計	・ヤフー	・住友化学	・農林水産省	・東京電力ホールディングス	・JFEスチール
・日本設計	・レベルファイブ	・味の素	・各県庁	・九州電力	・JXTGエネルギー
・梓設計	・リクルートホールディングス	・中外製薬	・東京都庁	・ソニー	・NOK
・久米設計	・野村総合研究所	・アステラス製薬	・政令指定都市	・東芝	・TOTO
・山下設計	・NEC	・三菱マテリアル	・都市再生機構	・西部ガス	・今治造船
・石本建築事務所	・富士通	・花王	・日本気象協会	・三菱電機	・荏原製作所
・佐藤総合計画	・シャープ	・資生堂	・IHI	・トヨタ自動車	・川崎重工業
・類設計室	・ソニー	・京セラ	・荏原製作所	・三菱重工業	・関西電力
・傳設計	・パナソニック	・日本ガイシ	・太平洋セメント	・神戸製鋼所	・九州電力
・NAP建築設計事務所	・日立製作所	・東レ	・今治造船	・三菱自動車	・九州旅客鉄道
・大成建設	・三菱電機	・日立化成	・川崎汽船	・川崎重工業	・京セラ
・大林組	・日本電産テクノモータ	・三菱レイヨン	・商船三井	・小松製作所	・クボタ
・鹿島建設	・村田製作所	・住友ベークライト	・本田技研工業	・花王	・神戸製鋼所
・清水建設	・東京エレクトロン	・日本ゼオン	・ヤマハ発動機	・ダイキン工業	・小松製作所
・竹中工務店	・キャノンメディカルシステムズ	・クリエイタ	・国際石油開発帝石	・三菱日立パワーシステムズ	・ジェイテクト
・五洋建設	・島津製作所	・大日本住友製薬	・伊藤忠商事	・三井E&Sホールディングス	・シャープ
・戸田建設	・九州電力	・日本製鉄	・大林組	・東ソー	・新明和工業(株)
・積水ハウス	・中部電力	・武田薬品工業	・前田建設工業	・京セラ	・スズキ
・ミサワホーム	・トヨタ自動車	・大日本住友製薬	・鹿島建設	・マツダ	・SUBARU
・旭化成ホームズ	・トヨタ自動車九州	・日本触媒	・大成建設	・デンソー	・住友精密工業
・大和ハウス工業	・日産自動車	・日立金属	・清水建設	・TOTO	・中部電力
・住友林業	・マツダ	・タカギ	・電源開発	・NOK	・財団法人鉄道総合技術研究所
・市浦ハウジング＆プランニング	・川崎重工業	・日立製作所	・NEXCO各社	・NTTドコモ	・電源開発(J-POWER)
・NTT都市開発	・三菱重工業	・マクセルホールディングス	・JR各社	・東海旅客鉄道	・デンソー
・福岡地所	・日本製鉄	・TOTO	・電力各社	・西日本旅客鉄道	・東京エレクトロン
・九州電力	（博士課程修了後の就職先例）	・マツダ	・日本工営	・旭化成	・東京ガス
・東京電力ホールディングス	・三菱電機	・デンソー	・建設技術研究所	・新日鐵住金	・東芝
・中国電力	・NEC	・三菱重工業	・パシフィックコンサルタント	・JFEエンジニアリング	・東芝メディカルシステムズ
・四国電力	・富士通研究所	・川崎重工業	・旭化成	・トヨタ自動車	・トヨタ自動車九州
・NEXCO西日本	・NTT	・日揮	・ジャパンマリンユナイテッド	・日本原子力発電	・豊田自動織機
・西日本鉄道	・野村総合研究所	・オリンパス	・川崎重工業	・日本原燃	・西日本旅客鉄道株式会社
・西日本旅客鉄道	・日本テクノス	・キャノン	・三菱重工業	・日本原子力研究開発機構	・日揮
・九州旅客鉄道	・IHI	・コニカミノルタ	・大島造船所	・新日鐵住金	・日産自動車
・NTTデータ	・トヨタ自動車	・シャープ	・三井海洋開発	・関西電力	・日本航空
・日本総合研究所	・豊田中央研究所	・IBM	・日本郵船	・日本原子力研究開発機構	・日本精工
・パシフィックコンサルタント	・産業技術総合研究所	・三菱電機	・日立製作所	・日揮	・日本製鉄
・旭化成	・味かおり戦略研究所	・リコー	・トヨタ自動車	・トヨタ自動車	・パナソニック
・太平洋セメント	・鉄道技術総合研究所	・ソニー	・日本海事協会	・富士通	・日立建機
・日鉄建材	・九州大学	・京セラ	・エクソンモービル・ジャパン	・富士電機	・日立製作所
・大和証券	・東京大学	・三菱ガス化学	・コスモエネルギー・ホールディングス	・原子燃料工業	・プリヂストン
・ピーズ	・大分大学	・三菱ケミカル	・三井物産	・三菱電機	・ボッシュ
・良品計画	・福岡大学	・日産化学	・三菱マテリアル	・三井重工業	・本技研工業
（博士課程修了後の就職先例）	・東洋インキ SCHD	・宇部興産	・日鉄鉱業	・核融合科学研究所	・マツダ
・九州大学	・LIXIL	・クラレ	・日本重化学工業	・原子燃料工業	・三浦工業
・各國公私立大学	・プリヂストン	・ADEKA	・地熱技術開発	・三菱電機	・三菱自動車工業
・シンフレックス一級建築士事務所		・東洋インキ SCHD	・日本航空	・三井重工業	・三菱重工業
・中国河南工業大学		・LIXIL	・全日本空輸	・富士電機	・三菱電機
（博士課程修了後の就職先例）		・プリヂストン	・石油・天然ガス	・東芝	・安川電機
・東京大学			・金属鉱物資源機構	・日立製作所	・ヤマハ発動機
・名古屋大学			・光興産	・日立製作所	・ヤンマー
・九州大学			・日立造船	・日立ハイテクサイエンス	
・鹿児島大学			・西部ガス	・リガク	
・防衛大学校				・量子科学技術研究開発機構	
・産業技術総合研究所					（博士課程修了後の就職先例）
・海上技術安全研究所					・九州大学等 国公立大学、高専
・福岡県工業技術センター					・宇宙航空研究開発機構等
・日本製鉄					・国立研究開発法人
・JFEスチール					・IHI
・日鉄ケミカル&マテリアル					・デンソー
・信越化学工業					・東芝
・ダイハツ工業					・トヨタ自動車
・三井金属鉱業					・三浦工業
・アイシン精機					・三菱重工業
・メリビル					
・三菱重工業					
・日立製作所					
・各地方自治体 等					

Facts and Figures of School of Engineering, Kyushu University

(As of May 1, 2020)

The number of students



The number of students

3,473

The number of female students

331

The number of University students

11,680

81.9%
enters graduate schools.

Number of faculty members



480

Total number of
Kyushu University faculty members

2,380



Inbound

Number of international students

161
Number of countries/regions of
international students
19

QS World University Rankings by Subject in 2020



Four subject areas ranked in the top

100

in the QS World University
Rankings by Subject in 2020

Ito Campus site area

Fukuoka YAHUOKU! DOME



×39.3

YAHUOKU! DOME = 69,130m²

Area of Ito Campus

2,717,130m²

The largest Campus in Japan

Total area(including affiliated facilities)

75.81 million m²

Ratio of job offers to students

Graduate School of Engineering



5.43
times higher

Graduate School of Information Science and Electrical Engineering



10.1

times higher

Fukuoka, as revealed through data

by Fukuoka City official website

Population increase



1st

among
ordinance-designated
cities

Ratio of youth



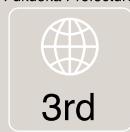
1st

people between
10 and 29 years old

Fukuoka, as revealed through data

by Fukuoka City official website

Number of international
students in
Fukuoka Prefecture



3rd

nationwide

Food affordability



1st

among 21 major cities

Fukuoka, as revealed through data

by Fukuoka City official website

Rental housing
affordability



3rd

among 16 major cities



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学工学部

CAMPUS GUIDE 2020

発行／令和2年7月 編集・発行者／九州大学工学部

〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL 092-802-2728

<http://www.eng.kyushu-u.ac.jp/>

